流通科学大学論集―人間・社会・自然編―第 32 巻第 2 号，141-160（2020）

初年次教育における効果的なキャリア教育とは
― 初年次教育科目のアンケート結果より考察する ―

Effective Career Education in First Year Experience
― Consideration based on Questionnaire Results of First Year Experience ―

前川　明*
Akira Maekawa

大学のユニバーサル化が進み、多様な学生が入学し、従来通りの教育内容では対応できなくなったため、その対策として各大学では高等学校から大学へのスムーズな接続をはかることを目的に初年次教育を実施している。初年次教育の内容は多岐に渡るが、本研究ではとりわけキャリア教育に焦点を当て、初年次教育における効果的なキャリア教育について、初年次教育科目の講義開始時、終了時のアンケート結果の変化から考察していく。
キーワード：初年次教育、キャリア教育、大学生のキャリアデザイン、アンケート結果の変化

Ⅰ．はじめに

2000 年代に入り、18 歳人口が減少し大学のユニバーサル化が進み、2000 年代後半には大学全入時代を迎えたと言われる。「令和元年学校基本調査（速報版）」によると大学・短大の進学率は 58.1%（前年より 0.2 ポイント上昇）、そのうち大学（学部）の進学率は 53.7%（前年より 0.4 ポイント上昇）であり、いずれも過去最高を示している [1)]。2000 年代初頭から続く進学率の上昇、高止まりにより、従来に比べて入学者の学力、学習習慣、学習の動機などの多様化が進み、各大学で初年次教育が広まった。濱名（2006）は初年次教育を「高校からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向けて大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させるべく、主に大学新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」[2)] と定義しており、入学者の多様化により、高校からの円滑な移行を図る必要が出てきたといえる。この広がりについて、山田（2013）は 2001 年に私学高等教育研究所の導入教育班が 4 年制の私立大学を対象に実施した調査結果と 2007 年に国立教育政策研究所が国公私立大学を対象に実施した調査結果を用いながら、初年次教育の導入率が 80.9%から 97.0%へ高まったことを示し、初年次教育が日本高等教育界の意識に根づいてきていることを示唆している。また、内容についても 2007 年の調査においては①スタディ・スキル

*流通科学大学人間社会学部、〒651-2188　神戸市西区学園西町 3-1
（2019 年 9 月 27 日受理）
©2020 UMDS Research Association

系、②スチューデント・スキル系、③オリエンテーションやガイダンス、④専門教育への導入、⑤教養ゼミや総合演習など、学びへの導入を目的とするもの、⑥情報リテラシー、⑦自校教育、⑧キャリア・デザインと定義し、どの内容を提供しているか、を尋ねたことを示しながら、その結果、2001 年調査と比べて、項目によっては実施の割合が下がっているものがあるものの、提供されている内容が幅広くなっていることが確認されたと述べている[3)]。このことから 1990 年代後半から初年次教育が各大学で広がり、内容の幅が広がっていったことがわかる。

本学においても、詳しくは後述するが、初年次教育科目「自己発見とキャリア開発 A」という、科目名にもある通り、先述の①～⑧の内容の中では⑧キャリア・デザインを中心に据えた授業を配置している。

本研究では、先に述べたように広がりをみせた初年次教育全般を扱うわけではなく、その中でもとりわけ、本学で実施している初年次教育科目「自己発見とキャリア開発 A」の内容の中心であるキャリア教育について焦点を当て、筆者の担当クラス[4)]の受講者に講義開始時、終了時にそれぞれ実施したアンケートの結果から、初年次教育における効果的なキャリア教育の内容を考察していく。

Ⅱ．本学の初年次教育科目「自己発見とキャリア開発Ａ」の概要

本学では 2015 年度より 4 年間の教育課程の初めに初年次教育科目として「気づきの教育」を配置している。気づきの教育は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたい自分（夢の種）」を探し、それに応じて本学での 4 年間の学びをより充実させ、意義あるものにするために配置されている。その中で「自己発見とキャリア開発Ａ」は、「気づきの教育」の幹となる必修科目である。この科目は、グループでの課題解決、企業人との交流、フィールドワークなど自発的で積極的な行動を伴う多数の経験をすることや、それを通して得られる様々な「気づき」を重視しており、「夢や目標」を見つけて実現するために、自分自身の現状や特徴を知り、職や仕事などを理解したうえで、自分自身を向上させていくことに主眼を置いている。

講義は、クラスごとに決められた曜日（[月火クラス]は月曜日と火曜日、[木金クラス]は木曜日と金曜日）の 1 限と 2 限の連続で実施され、週二日、90 分×4 コマが「自己発見とキャリア開発Ａ」の講義時間に充てられている[5)]。以下に実施内容を（図表 1）として示す。

段階		プログラム	時限数※
1.	大学生活の基盤づくり 円滑で充実した大学生活をしていくための基盤づくりを行います．具体的には，大学のことを知ると共に，課題演習やグループワークなどを通して，求められる【基礎能力】の向上を図ります．	(0) クラスミーティングと入学式	3
		(1) コミュニケーションキャンプ	(一泊二日)
		(2) 建学理念講話	1
		(3) オリエンテーション	1
		(4) 大学での学び	2
2.	学びの基盤づくり 充実した意義のある学びのための基盤づくりを行います．演習や講座受講を通して，今後の様々な学びに必要な知識やスキルを養い，自分自身について知ります．プログラムの実施順はクラスにより異なります．	(1) 図書館活用演習	1
		(2) 中内功記念館・ダイエー資料館講座	1
		(3) キャンパスマナー講座	2
		(4) コミュニケーション演習①	2
		(5) 適性検査活用講座	2
3.	将来のための自分の基盤づくり 将来のための自分の基盤づくりを行います．具体的には，①自分自身の現状についてコミュニケーション演習などを通して気づくこと，②大学での学びについて先輩や大学人との交流を通して学ぶこと，③職について様々な職業人と交流して気づくこと，④現場のフィールド演習でそれまでに身に付けた基礎能力を発揮してみること，などの活動を通して，【自分の将来の夢や目標】を考えるためのヒントを得たり，将来の職業人として求められる【基礎能力】の気づきや向上を図ります．	(1) 「出身学校への手紙」作成講座	2
		(2) コミュニケーション演習②	2
		(3) 資格・特別プログラム講座 職の気づき①(全体講話）と事前準備	2
		(4) 職の気づき②先輩との交流①／大学人との交流①	2
		(5) 職業人との交流①卒業生との交流	4
		(6) 国際交流プログラム	1
		(7) コミュニケーション演習③	1
		(8) 職業人との交流②地域に関わる職業人	2
		(9) 職業人との交流③企業で働く職業人	4
		(10) コミュニケーション演習④	1
		(11) フィールド演習	11
4.	4年間の計画づくり 様々な気づきを通して得られた自分の将来の夢や目標をまとめ，将来を見据えた4年間の学びの道筋（キャリアジジョン）を考え，クラスで発表します。	(1) 働く意味(講話)／目標設定(講話) 履修ガイダンス	2
		(2) 先輩との交流②	1
		(3) ポートフォリオ・目標設定スライド作成講座	1
		(4) ポートフォリオ作成・目標設定スライド作成 ／個別面談	4
		(5) 成果のまとめと発表・今後の課題	2
		(6) 「自己発見とキャリア開発Ｂ」・後期に向けて	2

※：時限数＝授業回数(大学での1回の授業は90分)

図表 1.「自己発見とキャリア開発Ａ」実施内容 [6)]

このように週 4 コマを充てて、初年次教育のプログラムを実施していることは珍しく、先述した初年次教育で提供するプログラム①スタディ・スキル系、②スチューデント・スキル系、③オリエンテーションやガイダンス、④専門教育への導入、⑤教養ゼミや総合演習など、学びへの導入を目的とするもの、⑥情報リテラシー、⑦自校教育、⑧キャリア・デザインのうち、⑧キャリア・デザインの割合が高く、職（仕事）を考える時間や社会人との交流の時間、目標設定を考える時間が多く取られていることがこの科目の特徴である。

そして、この科目の目的は自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「4 年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を獲得することである。そのために、実際に働いている人から話を聞き、フィールドワークに出かけて働いている人を見学して、様々な経験や人との関わりから、自分の特徴や仕事の内容、社会で活躍するために求められていることに気づき、自分の特徴を活かし、足りない部分を補うことで自分を成長させ、今後、どのように学生生活を送り、さらに、その先の社会人生活を送ることが自分の希望する人生なのか、自分で考えられる（想像できる）ようになる一歩を踏み出せるプログラム構成になっている。

Ⅲ．アンケート調査内容の検討

本章では、筆者が本学で担当している「自己発見とキャリア開発Ａ」のクラスの学生に対して、授業開始時、授業終了時に実施したアンケート調査の結果がどのように変化したか、みていくこととする。

１．アンケート調査について

アンケートの詳細は以下の通り、示しておく。

・対象者　：筆者が「自己発見とキャリア開発Ａ」で担当するクラスの 1 年生 40 名

・実施日時：第 1 回目（授業開始時）　2019 年 4 月 11 日（木）2 限
　　第 2 回目（授業終了時）　2019 年 7 月 18 日（木）2 限

・回収数　：第 1 回目　39 名（1 名欠席）
　　第 2 回目　39 名（1 名欠席）
※第 1 回目と第 2 回目の欠席学生はそれぞれ別の学生である。

・アンケート方法：本学で導入している教育支援システム（リアルタイム・アンケートサービス）respon[7] を使用し、学生にはスマートフォンを使用して回答してもらった。
※回答したのが誰であるか、わかる仕組みになっている。

・設問数　：10 問

・アンケート内容：
Ｑ1　キャリア教育に期待する内容は何ですか　（複数回答可）

A.　自己理解が深まる内容：自分のやりたいこと、なりたい自分を考えるために過去の自分を振り返ったり、職業適性検査を受けたりして、自分のことをより理解できる内容

B.　職業理解が深まる内容：職業調べ、職業人の講話、職業人へのインタビューといった学習活動や職業体験（インターンシップも含めて）をして職業のことを理解できる内容

C.　キャリアプランを考える内容：「就きたい職業」と「現在の自分」をつなぐ将来設計を考える内容（大学生活のキャリアデザインも含む）

D. コミュニケーション能力を高める内容：傾聴力を上げる、スピーチ・プレゼンテーション力を鍛えるワークやグループディスカッションを行い、社会で通用するコミュニケーション能力を高める内容

E. リメディアル教育（基礎学力向上のための内容）：社会で必要とされる小・中学校の国語や算数のやり直し、SPI などの就職試験対策などの内容

F. 資格取得のための内容：会計や IT、語学系の資格を中心にビジネスで使える資格を取得するための内容（公務員講座も含む）

G. その他（上記 1～6 以外の内容を期待する）：その他を選んだ方はQ2 で具体的に期待する内容を記載してください

Q2 Q1 の選択理由を記入してください。その他を選んだ方は具体的な内容も記入してください。（自由記述）

※Q3～Q10 については設問に対して、1．とてもそう思う 2．そう思う 3．どちらともいえない 4．そう思わない 5．全くそう思わない 以上、5 つの選択肢から 1 つ選んで回答するものである。

Q3 自分のことを理解できている

Q4 社会で求められる力について理解している

Q5 世の中の仕事内容（業界、職種）を理解している

Q6 学校での学び（勉強・研究）は社会で役に立つと思う

Q7 大学生活で頑張って取り組んでいることがある

Q8 自分の将来に期待が持てる

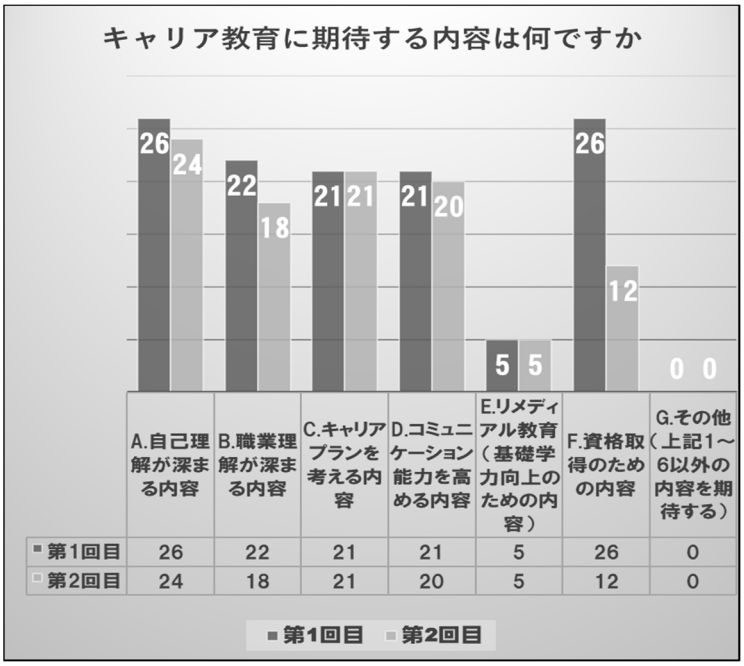
Q9 夢や目標を持っている

Q10　大学生活に満足している

アンケートの設問項目のQ1 は前川（2019）が以前にアンケート調査をした内容を今回も利用した。A～Gの選択肢を設定した理由はアンケートの設問項目は多くの大学で実施される 6 つの内容であり、多くの大学のキャリア教育はA～Gの内容を組み合わせて実施すること、もしくは、いずれかの内容に特化して実施することが多いからである[8) 9)]。Q2 は以前の研究の反省[10)]から回答を選択した理由を聞くことで意図を確認するために設定した。Q3 は自己理解について、Q4、Q5 は社会や仕事について、Q6、Q7 は大学生活について、Q8、Q9 は広く未来について、Q10 は総合的に大学生活に満足しているかについて確認するために質問を設定した。これらの設問を講義開始時、講義終了時にアンケート調査を実施し、結果について検討した。

２．結果と考察

ここでは第 1 回目と第 2 回目のアンケート調査の結果をみていく。



図表 2.　Q1「キャリア教育に期待する内容は何ですか」のアンケート結果

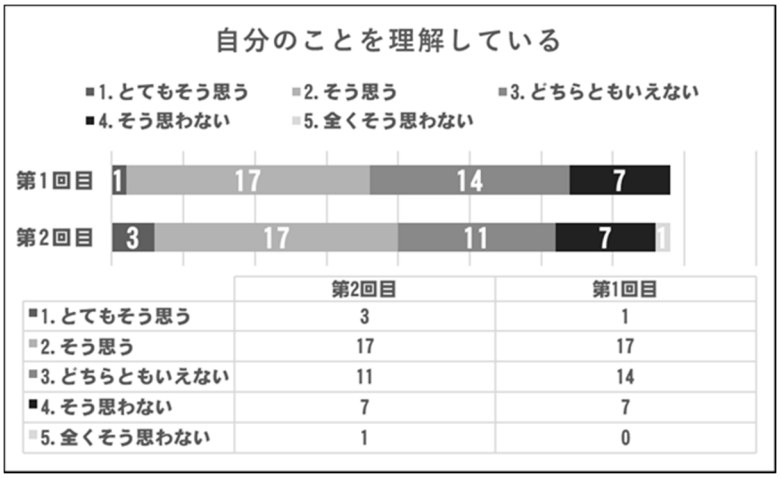
Q1 の「キャリア教育に期待する内容は何ですか」については（図表 2）のような結果となった。順番に結果についての特徴に触れていく。

まず、いずれのアンケート調査でもA.自己理解を深める内容を選択した学生が多かった点であ

る。これは、「自己発見とキャリア開発Ａ」の受講後（授業で自己理解のための取り組みをした後）の第 2 回目アンケート調査Q2、Q1 の選択理由をみるとＡを選んだ学生のコメントは以下のような内容が並び、自己理解の難しさを示している。

- 今以上に自己理解を深めたい
- 自分が全く分からないから
- 自分の好きなことや、得意や苦手を見つけていきたい
- この歳では、僕もそうですが自分について深く理解している人は少ない
- 自分がまだわかっていない
- 自身のことを理解して、自分が本当に就きたい仕事についての理解や方法を知ることが大切だと思うから
- 自分のことを全然理解できていないから

このことは、Q3「自分のことを理解している」の結果（図表 3）からも示されている。



	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	3	1
2. そう思う	17	17
3. どちらともいえない	11	14
4. そう思わない	7	7
5. 全くそう思わない	1	0

図表 3.　Q3「自分のことを理解している」のアンケート結果

2 回のアンケートの比較をすると、自分のことを理解しているの質問に対して、肯定的（とてもそう思う、そう思う）に答えている人数は 18 人から 2 人しか増えていない。その点からも授業で自己理解を深める内容に取り組んでも、簡単には自分のことを理解できないようである。結果、自己理解を深める内容に期待するという学生の人数が増えていると考えられる。

一方、自己理解が難しいからと言って、アンケート調査の結果がA.自己理解を深める内容を期待するだけではなく、B.職業理解が深まる内容、C.キャリアプランを考える内容についても、開

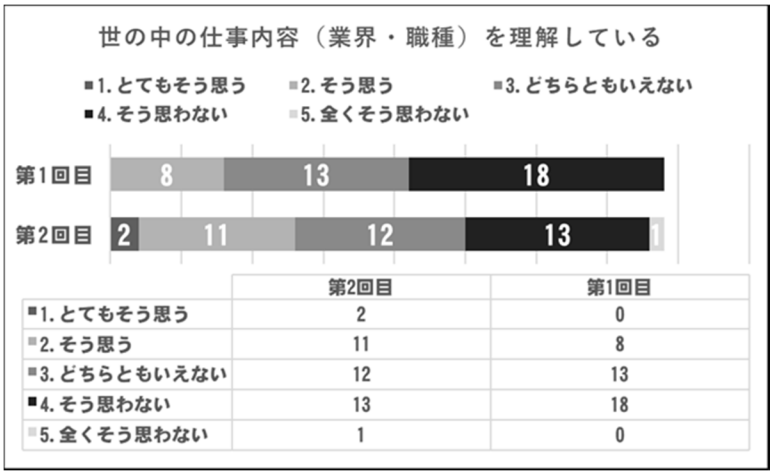
始時、終了時のいずれのアンケート調査でも半数もしくは半数近くの学生が期待する内容に挙げている点は、児美川（2013）がやりたいこと探しの危うさを示しながら「個人的な提案であるが、流行りのキャリア教育が〈「やりたいこと（仕事）」の選択→その職業（仕事）について調べ学習といったベクトルでの段階論に立っているとしたら、そんなことはすぐにやめたほうがいい。そうではなくて、「やりたいこと」探しと、さまざまな職業（仕事）調べとは、同時並行的に、相互に影響を及ぼしあうように取り組まれるべきであろう。（中略）「自己理解」と「職業理解」との往復関係をつくりあげることである。」と述べている[11]ように、自己理解だけに偏らず、職業理解や将来のキャリアプランに意識を向けられている結果であり、児美川の言う「自己理解」と「職業理解」との往復関係をつくりあげるところまで出来ているわけではないが、「自己発見とキャリア開発Ａ」の内容が自己理解を深める内容だけでなく、幅広い仕事を知る内容を多く配置していたことの効果が表れたと言える。このことは、Q4「社会で求められる力について理解している」の結果（図表 4）からも示されている。

	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	6	0
2. そう思う	20	13
3. どちらともいえない	10	18
4. そう思わない	2	8
5. 全くそう思わない	1	0

図表 4.　Q4「社会で求められる力について理解している」のアンケート結果

2 回のアンケートの比較をすると、社会で求められる力について理解しているの質問に対して、肯定的（とてもそう思う、そう思う）に答えている学生は 13 人から大幅に増えて 26 人になっている。多くの社会人と関わることで、社会では何が求められるのか、イメージをつかめた学生が増えたのだと考えられる。しかしながら、Q5「世の中の仕事内容（業界、職種）を理解している」の結果（図表 5）は第 1 回目のアンケートでも肯定的（とてもそう思う、そう思う）に回答している学生は少なく、第 2 回目のアンケートでも肯定的（とてもそう思う、そう思う）に回答している学生はQ4 のようには増えていなかった。彼らは「自己発見とキャリア開発Ａ」の授業の中で、一般的なサラリーマンだけでなく、経営者やフリーランサー、公務員など幅広い職に就いて

いる人から話を聞いているが、ひとつひとつの仕事をじっくりと理解するほどの時間は取れていない。結果、世の中に数多くの仕事があることは理解できても、仕事内容を深く理解できるようにはなっていないと推測する。



	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	2	0
2. そう思う	11	8
3. どちらともいえない	12	13
4. そう思わない	13	18
5. 全くそう思わない	1	0

図表 5. Q5「世の中の仕事内容（業界、職種）理解している」のアンケート結果

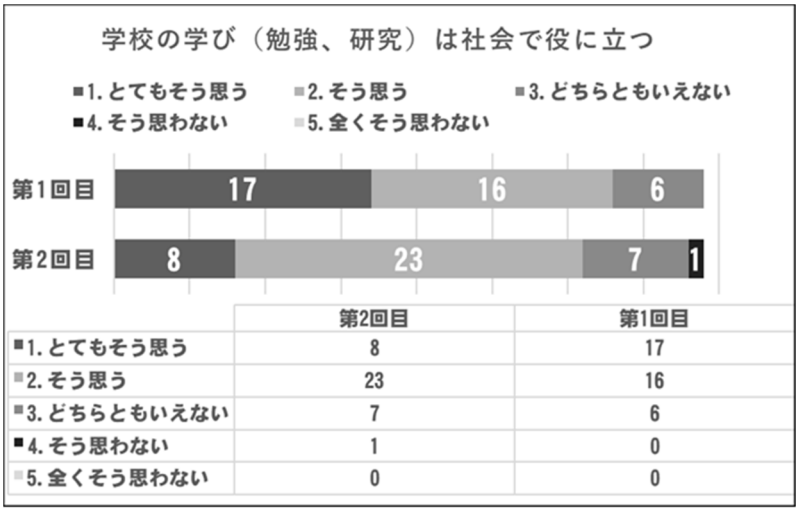
次に、大きな変化をみせているのがＦ.資格取得のための内容である。1 回目は 26 人の学生が期待する内容に挙げているのに対して、2 回目では期待する内容に挙げている学生が半数以下の 12 人になっている。松高（2008）が似たような傾向であった京都産業大学での調査結果を示しながら以下のように述べている [12)]。

入学時には資格を取得しようと思っていながらも、実際にはそれほど取り組まなかったという傾向である。その理由として考えられることは、入学時点では、「資格取得」そのものについてそもそもよく理解しておらず、あまり深く考えることなく“とりあえず資格でも取っておこうか”という、ステレオタイプ的な意識からの回答である可能性が高いということだ。

しかし、もしそうであったとするならば、それはそれで憂慮もある。今日、資格取得を受験生集めの“売り”にしている大学も少なくない。この調査結果からも実際に入学時では、資格取得の意欲は高い。しかし現実には半数以上の学生が取り組んでいない。そこをどう考えるかだ。大学側が提供する資格取得と学生側のニーズが合っていなかったのか、学生が資格取得の意味をよく理解し資格を取ることを止めたのか、資格は取得したかったけれども、難易度、経済的負担等で諦めたのか、どのような理由があったのか。そこを考えなければ、大学教育の中に資格取得というプログラムをどのように位置づけるのか、その根底の認識を誤ることになりかねない。資格

取得が単なる学生集めの宣伝文句だけになっているのであれば本末転倒である。

同様に、Q6「学校での学び（勉強・研究）は社会で役に立つと思う」の結果（図表 6）についても肯定的（とてもそう思う、そう思う）な回答数が減少している。とりわけ、とてもそう思うの回答数が 4 月の結果では 17 人であったのが、7 月の結果では 8 人になり半減している。入学時には資格取得を含めた学びに対する期待や意識が高いにも関わらず、3 か月の間に資格、学習面での回答に明らかな減少がみられるのは、何が理由なのかを考える必要がある。



	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	8	17
2. そう思う	23	16
3. どちらともいえない	7	6
4. そう思わない	1	0
5. 全くそう思わない	0	0

図表 6.　Q6「学校での学び（勉強・研究）は社会で役に立つ」のアンケート結果

そこで、「自己発見とキャリア開発A」に続き、後期に開講される「自己発見とキャリア開発B」[13]という第 1 回目の授業（2019 年 9 月 25 日実施）で、前期に実施した 2 回のアンケート結果を見せた上で、結果についてどのように感じるか尋ねたところ、以下のようなコメントが寄せられた。今回のアンケート調査の全体について尋ねたため、ここでは資格、学習面について回答があったものを抜粋して記載する。

- 資格取得は入学時点での学校への期待値の現れだと思う。実際に取得する勉強を始めたからこそ現実を知った結果となったのではないかと思った。
- 資格取得が減ったことは想像以上に資格取得が大変なことを知ったからだと思う。
- 資格について初めは取ろうと意気込んでいた人は多かったけど、大学生活を送る上で自分から資格の申し込みをしに行ったり、申し込みの期限を気にしたりとなんでも自ら動かないと

何も始まらないのでそこで諦める人が多くなったのかなと思います。

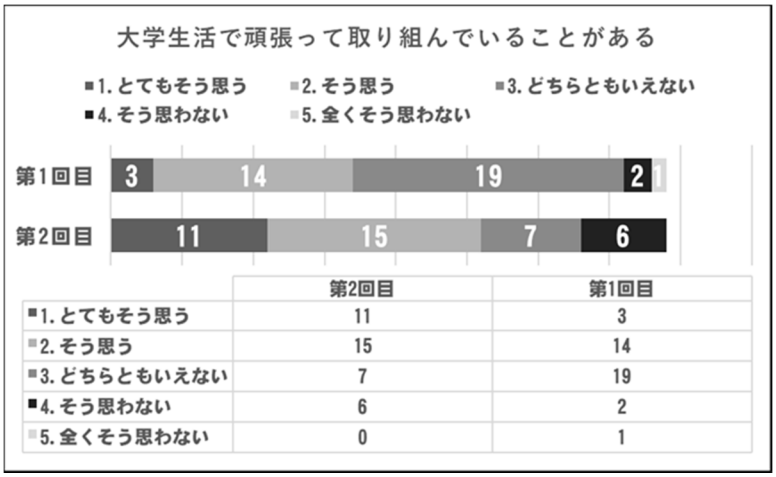
- 資格への意欲が下がっている結果が出たが、その通りだと思う。自分は資格講座を受けているが、大学に入って就活までに取ればいいという考えが多いように感じる。自分も少しだけ思ってきた。
- 大学に入りたての頃は、「やりたいこと、やらなきゃいけないこと。同時に頑張る!」とやる気があったのですが、時間が経つごとに本来の自分が現れて、したいことだけに目が向いてしまった、というのが僕でした。だから資格を取らなかったのですが、アンケートを見ると皆も資格を取ろうという意欲が減っているようで、安心したような悲しいような気持ちになりました。
- 資格取ることを目標としている人が、別の目標を見つけた結果なのかなと感じた。
- 大学に入学時より資格取得にむけての意思が低下してるのは自分もそうだし、他の人も少なからずそういう傾向があるのは普通だと思った。その理由は資格取得以外に目標が出来たからだと思う。
- 資格の項目が減ったのは資格以外のことに時間を使っているのかなと思いました。4 月の段階ではアルバイトも部活もしておらず、部活にも入る気はなかったので時間を資格に注ごうと思っていましたが、資格の勉強よりもアルバイトや部活に時間を使っているように思います。資格の勉強は大変ですが、必要だと思うので私は続けて頑張っていきたいと思います。

学習面に触れているコメントはなく、アンケート結果をみて資格の内容に期待する人数が大幅に減っていることに対して多くのコメントが寄せられた。

まず、現実（勉強の大変さ、資格取得の難易度の高さ、資格申し込みなど手続きの煩雑さ 資格の必要性など）を理解し、以前のように高い意欲で取り組めなくなったという意見がみられた。特に資格の必要性についてはE.リメディアル教育（基礎学力向上のための内容）の回答結果と関連があり、いずれのアンケートでも 5 人ずつと少ない。前川（2019）が 3 年生後期の授業でのアンケート結果（Eの項目が 2 年生前期の授業、3 年生前期の授業での期待する内容の数値に比べて、3 年生後期の授業での期待する内容の数値が上がっている点）に触れながら、就職活動が近づいてきて、就職試験のために基礎学力の向上の必要に迫られているから数値が上がっていると述べた[14] 通り、1 年生の前期ではその必要に迫られていないため、期待する内容に挙げる学生が少ないと考えられる。資格取得についても同様に実際に勉強を始めてみると、大学 1 年生の間に慌てて資格を取得する必要を感じなくなり、優先順位が低くなったと考えられる。

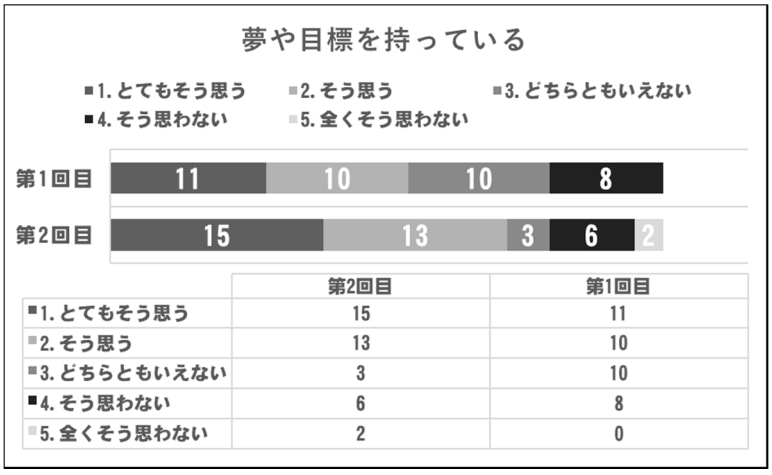
次に、資格取得以外に目が向き、他にやりたいことや目標を見つけたから、資格取得の内容に期待しなくなったという意見がみられた。この点について、資格取得の面だけに目を向けると良い結果だったとは言えないが、資格取得以外のことに意欲的に取り組むようになったとも言える。

これは、Q7「大学生活で頑張って取り組んでいることがある」の結果（図表 7）やQ9「夢や目標を持っている」の結果（図表 8）に示されている。いずれの結果も肯定的（とてもそう思う、そう思う）に回答している学生が増えていて、Q7 は 17 人から 26 人、Q9 は 21 人から 28 人に増え、明らかに入学時に比べて、夢や目標に向かって、大学で何かに頑張って取り組んでいることがわかる。



	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	11	3
2. そう思う	15	14
3. どちらともいえない	7	19
4. そう思わない	6	2
5. 全くそう思わない	0	1

図表 7.　Q7「大学生活で頑張って取り組んでいることがある」のアンケート結果



	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	15	11
2. そう思う	13	10
3. どちらともいえない	3	10
4. そう思わない	6	8
5. 全くそう思わない	2	0

図表 8.　Q9「夢や目標を持っている」のアンケート結果

さらに、Q2 のQ1 を選択した理由をみていくと、第 1 回目の回答内容より、具体的に書いている学生が多く見られた。3 か月の大学生活で様々な経験をし、より深く考えた上でのアンケートの回答なので、数値の変化は大きくなくても、明確な考えを含んだ回答になっていると考えられ

る。以下に特に具体的に記されている回答内容を挙げておく。

学生Aの回答内容

（第1回目）

・ 自分に何が合うのか、自分は何が得意で何がやりたいか、自分を見つめ直す時間だと思ったから。

（第2回目）

・ 自分がどの仕事に向いているか、自分はどんな性格なのか、あまり理解していない部分があったが、キャリア教育を通して自分を知ることができた。自分の理解している部分の再確認も同時にできたから。企業の人の話を聞くことにより、自分の価値観が変わったり、良い影響を受けたと実感出来たからです。仕事についても詳しくは分からなかったが、仕事の詳細が分かり興味が湧いたから。自分は大まかな将来の夢は決まっていたけど、先生との面談などを通して、ゼミのことを知ったり、大学院のことを知ることができ、自分の夢がより鮮明になったのを感じたから。グループワークを通して人と話せるようになり、上手くコミュニケーションをとれるようになったと感じたのと人の前に立って目標設定スライドなどを発表するなどの機会があり、プレゼンテーション力もついたのを実感したからです。

学生Bの回答内容

（第1回目）

・ 自分のやりたい事をする為に伸ばす必要のある所だからです。

（第2回目）

・ まだこの歳では、僕もそうですが自分について深く理解している人は少ないし、少子高齢化の影響でコミュニケーションを取れない人が近年増えていると聞きました。だからこそ、このキャリア開発に僕はこの二つを求めます。企業での面接や、普段の会話などでもそうですが、コミュニケーションは本当に大事になってきます。そんなコミュニケーションを円滑に進めるためには、やはり自分を知っている必要もあると思うのです。自分を知らずにコミュニケーションを図ると、知らず知らずのうちに相手を不快にさせてしまったりなど、余計な争いを生む火種になりかねません。なので、僕はこの二つに焦点を絞って授業をやってくれれば嬉しいなと感じました。

学生Cの回答内容

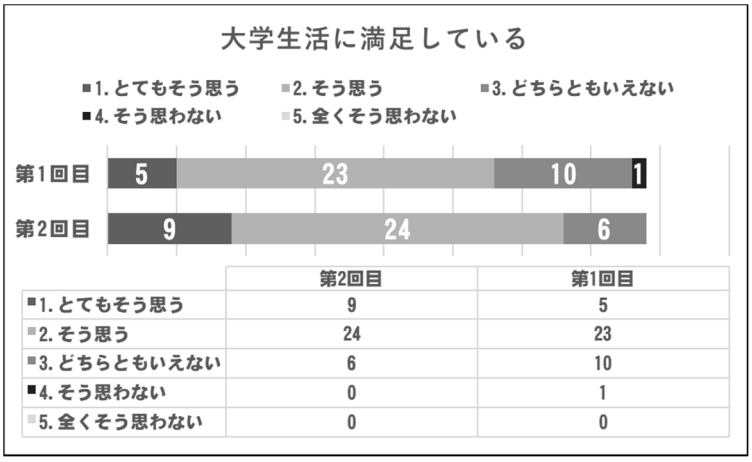
（第1回目）

・ 多くの職業を理解してみたい。

（第 2 回目）

・　自分の今を知り、どうすれば就きたい職に就くことができるのか細かく分析できる。また、就きたい職があるかもしれないけれど色々な職を見てみることが出来るので視野が広くなり選択肢が広がると思う。そしてコミュニケーション演習や自己分析などのパワーポイント、フィールドワークの発表によってプレゼンテーション力やコミュニケーション力を高めることができるから。

このことと先述のQ7、Q9 の結果をあわせてみてみると、4 月に比べて考えが具体的になっている学生、夢や目標を意識して大学生活に取り組んでいる学生が多くなったことがわかる。それが、Q10「大学生活に満足している」の結果（図表 9）につながっていると推察する。



	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	9	5
2. そう思う	24	23
3. どちらともいえない	6	10
4. そう思わない	0	1
5. 全くそう思わない	0	0

図表 9.　Q10「大学生活に満足している」のアンケート結果

具体的にはどのようなことを感じて、大学生活に満足しているのか、授業が終了した時（2019 年 7 月 19 日）に書いてもらった感想を抜粋したものを以下に紹介する。

（自分自身のことについての感想）

・　自分自身のことをもっと詳しく知ることができた。
・　新しい自分も発見できたのも嬉しかったです。
・　自分の知らない自分を知ることも出来ました。
・　自分自身の能力を発見すると共に、足りていない部分を更に伸ばすきっかけとなりました。
・　自分のことが改めて少しだけだけどわかって良かったです。
・　自分の能力を知ったり自己分析ができるようになりました。

- 自分のことを見つめ直すことが出来た。
- 自分のことも分析して考えられて、周りの人もそれぞれに考えを持っていることを知れました。
- 自分のことを理解するきっかけとなり、将来についてもっと考えようと思うようになりました。
- 自分は漠然と何をするべきなのかこれから将来大丈夫なのかなど不安や悩みがありましたが様々な方の話を聞いてそういう考えもあるのかと新しい選択肢を教えて貰えてためになりました。

（将来のことについての感想）

- 各企業の社長さんや先輩の話が聞くことができてとてもタメになることが多かったです。
- 自分の将来のことを考えることが出来ました。
- 企業の人や先輩の話を聞き、将来の夢がより明確になりました。
- 少しは将来のビジョン、今後の課題を発見することができたかと思われる。
- 先輩や卒業生、職業人の話を聞き大学での有意義な過ごし方や色々な職業があることを知ることもできました。
- 在学中の先輩方や卒業生の方、さらには企業の方にまでお越しいただいて、これからの将来の話をしていただいて、とても参考になる講座でした。
- この授業を受けて少し将来の見方が変わった気がします。
- 自分が思っていた以上に将来のキャリアに関わることや、役に立ちそうな講義を受講できてとても良かったと思った。

（対人関係、コミュニケーションについての感想）

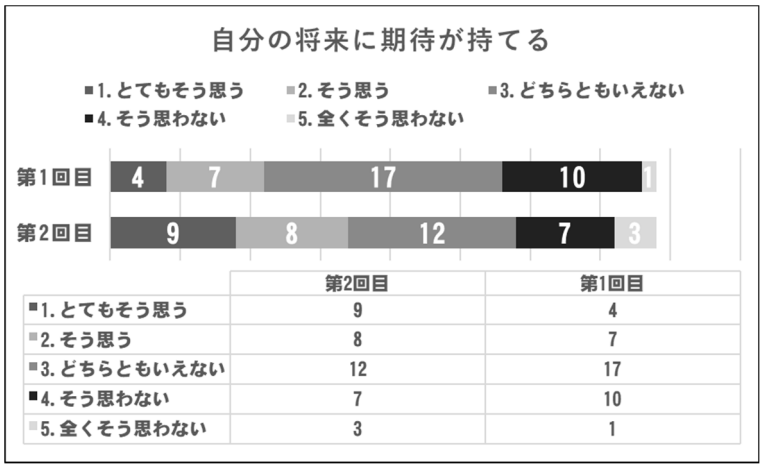
- キャンプをして、コミュニケーションのゲームのようなものをして、この授業がいつからか楽しみになりました。
- 多くの知り合いを作れて自分にとってはかなりプラスになる時間だったと思う。人生において久しく思っていなかったが、学校に行きたいと思う事があったので自分でも驚いた。
- 全く知らない人だらけでクラス制でなければ友達も作れなかったと思うので、クラス制っていうのがとても大事なものであったと思います。仲のいい友達もできたので大学生活の基盤が作れるとてもいいものだと思いました。
- グループワークやプレゼンテーションでコミュニケーション能力とスピーチする力がついてよかったです。
- 授業を振り返って感じたことは、コミュニケーション能力の重要さです。グループワークを

通して何をするにもやはりコミュ力が大事だと実感する場面が多々ありました。

- この授業を通して段々と友達が増えていったのが嬉しかったです。
- クラスがあるおかげで今でも一緒にいる友人が出来た。
- コミュニケーションキャンプから、新しい友人に出会い、これからの大学生活を楽しむための大切な過程となりました。
- 行くたびに話す友達が増えて大学に行くのが楽しくなりました。
- プレゼンテーション力や協調性が少しでも身についたのかなと思います。
- 高校と同じようにクラス教室でやってきた授業だったので、友達を作るのにも困ることはなかったのでよかったです。
- 自分が友達を自ら作りに行く性格じゃなくて、話すだけ話してみるって言うタイプなのでまさかほとんどの人と喋って一緒に入れるとは思ってなかった。
- クラスメイトとの共同作業などもあって、クラスメイトとの親交が深まったと思う。
- 自己キャリのお陰で友達が多く増え、今までの自分の考え方と変わった。
- キャンプでは全く知らない人と寝泊まりする事で様々な友達が出来たりして、良い経験になりました。
- クラスで色々な人と関わる機会になって、視野が広がったと思います。
- 大学に入ったばかりの時は友達ができるかどうか、大学生活に馴染めるかどうか不安なことがたくさんあったけど、この講義を受けて、不安が解消されました。
- 普通に授業を受けるだけだとこんなに学部学科が違う人達と知り合えなかったのでほかの授業でも質問したり助けてもらえるのでよかったです。
- クラスとみんなと仲良くなることができたのが、とても良かったです。

感想の内容をみていくと、これまで述べてきた自己理解、職業理解についても触れられているが、何より多かったのがコミュニケーションをとることや友人が出来て学校が楽しくなったということであった。この結果は半数の学生がD.コミュニケーション能力を高める内容に期待すると回答していることとつながってくる。学生にとって、対人関係を構築することはやや難しいようであるが、構築できた時の達成感や満足度は高いのだと感じる。そういう意味では、初年次教育におけるキャリア教育は自己理解や職業理解といった内容が必要であることはもちろん、それを共に学ぶクラスメイトとの関係、クラスメイトから受ける刺激、友人と関わるためのコミュニケーション能力の向上など、対人関係を構築することや周りの環境を整えることも大切な要素であり、先ほど、考えが具体的になっている学生、夢や目標を意識して大学生活に取り組んでいる学生が多くなったから大学生活に満足していると述べたが、それに加えて、対人関係の充実が大学生活の満足度を上げる大きな要因の一つであると考えられる。

最後に、Q8「自分の将来に期待が持てる」の結果（図表 10）について触れていく。アンケート結果では大学生活で頑張って取り組んでいることがあり、夢や目標を持って、大学生活にも満足している学生が多いが、自分の将来に期待を持っている学生は多いとは言えない。肯定的（とてもそう思う、そう思う）に回答している学生は 11 人から 17 人に増えているが、全く期待が持てない学生も 3 人存在する。この点については、先述の通り、自己理解が出来ていないため何に向いているのか、何がやりたいのか、明確にイメージすることが出来ていない点で不安を感じたり、仕事内容を理解することが出来ていない点で将来、明確な仕事のイメージが持てないことから不安を感じているのではないかと推察する。今後、理由を明らかにしていきたい。



	第2回目	第1回目
1. とてもそう思う	9	4
2. そう思う	8	7
3. どちらともいえない	12	17
4. そう思わない	7	10
5. 全くそう思わない	3	1

図表 10. Q8「自分の将来に期待が持てる」のアンケート結果

以上、「自己発見とキャリア開発Ａ」の授業でとったアンケート結果と感想や後期の授業でのコメントをみた結果、ここまで述べてきたような変化がみられたことは、授業にも一定の効果があったと考えられる。

Ⅳ．まとめと今後の展望

ここまで、筆者の担当クラスの受講者に受講開始時、終了時にそれぞれ実施したアンケート調査の結果から、初年次教育における効果的なキャリア教育の内容を考察してきた。その内容を整理すると、以下のような傾向がみられた。

- 自己理解は難しいため、自己理解を深める内容を期待する学生が多くみられた
- 「自己発見とキャリア開発Ａ」では職業理解や目標設定など将来を意識する内容が多いため、社会で求められる力の理解が促進し、夢や目標が明確になった学生が多くみられたが、具体

的な仕事内容の理解はそれほど深まらなかった。

- 資格取得の内容を期待する、学校での学びは社会で役に立つなど、学びに対する意識が弱まっていった学生が多くみられた。一方、学生生活で頑張って取り組んでいることがある学生が多くみられた。
- 「自己発見とキャリア開発Ａ」はコミュニケーションのワークが多く、クラス制であったため、クラスメイトとコミュニケーションのワークを通じて、友人が出来、大学生活に満足している学生が多くみられた。

この傾向から効果的だと考えられる点、課題と考えられる点は、以下の点が挙げられる。

まず、クラス制でコミュニケーションワークを通じて友人関係構築をスムーズに出来たことである。このような状況を作ることが出来たため、「多くの知り合いを作れて自分にとってはかなりプラスになる時間だったと思う。人生において久しく思っていなかったが、学校に行きたいと思う事があったので自分でも驚いた。」や「全く知らない人だらけでクラス制でなければ友達も作れなかったと思うので、クラス制っていうのがとても大事なものであったと思います。仲のいい友達もできたので大学生活の基盤が作れるとてもいいものだと思いました。このような状況を作ることが出来た。」といった感想につながり、不安な要素が減ったため学生生活へ上手く順応できたと考えられる。

次に、多くの社会人から仕事の話を聞く内容である。先述した「やりたいこと」探しと、さまざまな職業（仕事）調べが行われることが同時並行的に行われる内容であり、自己理解を深める内容だけでなく、1 年生の前期で授業内で 10 人ほどの社会人から話を聞くことにより、学生が刺激を受けていることも感想から読み取れる。そのことが社会で求められる力の理解につながったり、夢や目標が明確になる学生が多くなった点から効果があったと考えられる。

一方、学びに対する意識が弱まった点は課題と言えるだろう。松高（2008）は「大学の教育力としてのキャリア教育の役割とは、学生を「大学の勉強」に向かわせることである。」と述べている[15]が、今回の結果からは「大学の勉強」に向かわせることが出来なかったことが示された。

以上の点から、初年次教育における効果的なキャリア教育を実践するために、これまで通り

- 授業内でコミュニケーションをとれる環境を多く設定し、友人関係を構築できる場を作っていくこと。
- 自己理解を深めることに並行して社会人との交流を増やし、将来のイメージを持てるようにすること。

これらに取り組んでいくことはもちろん必要であるが、それに加えて、児美川（2015）はキャ

リア教育とは、子どもと若者の「将来の準備教育」であり、「働くことへの準備教育」も含めたトータルな人生（ライフキャリア）への準備（生涯学習への準備、家族を営む（かもしれない）ことへの準備、さまざまな人間関係を結んでいくことへの準備、市民や主権者となる準備など）が必要である、と述べている[16)]。そのことを考えると

・　働く人のイメージを持つだけではなく、社会人として生活するために必要なことを伝えていくプログラムを構築する。

また、課題であった学びへの意識については、技術革新が進み、社会の変化が急速に進む現代社会においては、常に新しいことを勉強していくことが求められるため、

・　学ぶことと社会で仕事をしていくことのつながり（必要性）を学生へ伝えていく。

以上のこと取り組むことで初年次教育における効果的なキャリア教育を実践していきたい。

最後に、今回はクラスの 39 人に対するアンケートであるため、この結果を一般論として述べることは出来ないが、少ないデータでも受講前、受講後でアンケートをとることで、今後の手がかりになる結果を得ることが出来たと考える。さらに、今後は筆者の担当クラスだけでなく、別のクラスのデータとの比較や、経年での比較をし、分析を深めることで、初年次教育における効果的なキャリア教育のプログラムを構築していきたい。

引用文献、注

1）　文部科学省：「学校基本調査－令和元年度（速報）結果の概要－」（2019）
（URL : http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591.htm 2019 年 9 月 16 日取得）
2）　濱名篤、川嶋太津夫編著 『初年次教育 歴史・理論・実践と世界の動向』（丸善株式会社, 2006）p.3
3）　山田礼子：「日本における初年次教育の動向－過去、現在そして未来に向けて」初年次教育学会（編）『初年次教育の現状と未来』（世界思想社, 2013）pp.13-14
4）　流通科学大学の「自己発見とキャリア開発Ａ」のクラスは留学生クラス 4 クラスも含めて、30 クラスに分けている。
5）　流通科学大学　入学式クラスミーティング配布資料　「自己発見とキャリア開発 A の概要」より抜粋したものを筆者が加筆、修正した。（2019 年 4 月 1 日配布）
6）　流通科学大学　入学式クラスミーティング配布資料　「自己発見とキャリア開発 A の講義構成」より抜粋した。（2019 年 4 月 1 日配布）
7）　株式会社レスポンの提供する教育支援システム（リアルタイム・アンケートサービス）
詳しくは　株式会社レスポン　ホームページ　https://respon.jp　を参照

8） 前川明：「アンケート結果からみる学生が期待するキャリア教育について」『流通科学大学 高等教育推進センター紀要 第４号』（流通科学大学 高等教育推進センター, 2019）p.14

9） 以前のアンケート調査時のキャリア教育に期待する内容の選択肢はＡ～Ｇではなく１～７であった。今回、設問数を増やす際にQ1～Q10 としたため、Q1 の選択肢をＡ～Ｇとした。

10）前川明：前掲書 p.27

11）児美川孝一郎：「キャリア教育のウソ」（筑摩書房, 2013）p.76

12）松高政：「大学の教育力としてのキャリア教育―京都産業大学におけるパネル調査分析から―」『京都産業大学論集. 社会科学系列 第 25 号』（京都産業大学, 2008）p.154

13）流通科学大学では前期の「自己発見とキャリア開発Ａ」に続き、後期に同じクラスで「自己発見とキャリア開発Ｂ」という科目が開講される。

14）前川明：前掲書 p.25

15）松高政：前掲書 p.145

16）児美川孝一郎：「まず教育論から変えよう」（太郎次郎社エディタス, 2015）pp.194-195